▲▼▲第46回クリエイティブサロン（2016年 12月3 日）開催報告▲▼▲

第1部講演会：「世界が注目する、デンマークのビジネスデザインスクール、KAOSPILOTとは？ －未来を創るクリエイティブリーダーシップ－」」

講師：大本綾　（㈱Laere/ Laere Inc.共同代表　Creative Process Designer）

大本氏は世界が注目するデンマークのオーチスにあるビジネスデザインスクールKAOSPILOTの修学体験を述べられた。ここの特徴は、不確実で混沌したカオスな状況でも、パイロットのようにナビゲートできる人材を育成している。創学の動機は、ベルリンの壁崩壊、そして若者失業者増加に起因している。カオスな中でも自ら仕事を創り出す人材を育てるためだった。多様な背景のチームメンバーと取り組む困難な課題の中で、自分と他人と結果をリードすることを学ぶ。例えば、車座の討論の中で、他人の意見を受け入れ、自分の意見を共有し、自分とチームの在り方を発見していく。多国籍で異なるスキルを持った36人が納得解を見出すためにブレインストーミング形式で進める。発想のプロセスは、探求－実践－創造－実行－内省であり、教科書ありきではない。例えばドラッカーの本を渡されたとしても、それを携えてキャンプ生活をし、対話を深めるなど、実践を優先する。Enterprising leadershipの育成がKAOSPIROTの目的であるから先人の学びだけではなく、自ら学びを開発していく。基本線としては、プロジェクトデザイン、プロセスデザイン、ビジネスデザインについて自分の考えを構築していく。取り組む課題は、自ら企業と交渉し、インターンをしながら、自分の考えを元に企業を活性する試みをする。試験は、その結果について口頭試問を受け、レポートを提出することである。体験からくる学びのプロセスをまとめると、実践－内省－理論－学びとなる。実践とは崖から落とさせる如く、厳しい環境に挑まされ、自問自答をしながら苦しみ、やがて理論という梯子を見つけ、納得した時に学びが成立すると語る。（記事：田村新吾）

第2部講演：「イノベーティブ・プランニング」

講師：田村新吾（日本創造学会理事・㈱ワンダーワークス代表）

今回は、多くの発明をしたソニーの発想法についてワークショップを行った。

江崎玲於奈氏が、ソニーを評して「Well organized chaos」と言ったことがある。ソニーは混沌の中から糸を紡ぐように新発明を繰り返した。その原動力は社員の長所を巧みに組み合わせ発想と実用化の歯車が回転する経営を作り上げたからである。

人づくりについては、個性ある人材の採用と個性を生かした育成であった。その主な方法は、自力をつける「段階的強化法」、自発性を促す「隗より始めよ法」、自立力をつける「配転築城法」そして独自性をのばす「長所伸長法」がある。その上で発想が出やすい環境を作った。個人に対しては、頭のこわばりをなくす「脳壁破壊」習慣と、家で発想しても、発想した直後に作業台に座れる時空無用の職場環境があった。その結果、気宇壮大な目標を立て、あえて困難な問題に挑んだ。問題解決にあたっては、組織を越えた相互お節介、メンターを通して部課を超えた知識の結合などの「人的結合」を戦略的に行うことで難問解決し、発明に至っている。例えば、社員数400名弱のころに手作りでトランジスタを開発し、世界初のポケッタブルラジオを発明するなどが好例である。

今回のワークショップは、脳壁破壊を意図したワークショップを行った。最初に客観的に見た自分の長所の見つけ方の紹介をした。その上で、各々頭のこわばりの原因をポストイットに記述し、一覧整理した。その一覧表の原因を全廃し、何でもオーケーの脳にしてブレストに進んだ。「無一物中無尽蔵」という禅語の心境である。ブレストでは、店頭のレジにまつわる「不自然」探しを4人一組でポストイットに書き、KJ法で整理して、特に重要な不自然の山を解決すべく気宇壮大な案を出し、発表してもらった。レジ前の列、手続き、レシート処、理誤計算、万引きなどの問題指摘があり、レジの無人化案、ユビキタスレジ、レジ兼用のカゴなどユニークな発表があった。（記事: 田村新吾）